

高梁市 市民意見収集結果報告 (高校生・大学生・外国人)

1. 高校生アンケート

1-1. 調査の概要

■調査の背景及び目的

- ・市内の人口減少が進行する中、将来を担う高校生に対し、地域への愛着や定住意向を高める取組が求められています。そのため、高校生が捉える高梁市の現状や課題を把握し、今後の施策検討に活かすことを目的とします。

■調査の対象者

- ・高梁市高校生 計866人
（高梁高校 441人、高梁城南高校 309人、方谷學舎高校 98人、宇治高校 18人）

■調査の手法

- ・WEB調査票

■調査の時期

- ・2025年7月16日～9月10日

■回収数（人）

総数	625
----	-----

< 学校別回収数（人） >

高梁高校	382
高梁城南高校	153
方谷學舎高校	75
宇治高校	15

■回収率（％）

全体	72.2
----	------

< 学校別回収率（％） >

高梁高校	86.6
高梁城南高校	49.5
方谷學舎高校	76.5
宇治高校	83.3

■標本誤差（「アンケート結果が実際の母集団（全体の傾向）からどの程度の誤差範囲に収まるか」）

- ・標本誤差は以下のとおりで、信頼水準95％の精度を担保しています。

	総数
高梁市 高校生	±2.1％

1-2. 調査結果（単純集計）

・ 各設問項目の回答結果は以下の通りです。

	回答結果（重要箇所抜粋）
基本属性	<ul style="list-style-type: none">居住地に関して、回答者の過半数は高梁市外(51.2%)、次いで高梁地域(36.6%)
地域への愛着	<ul style="list-style-type: none">回答者の約65%が「高梁市に愛着がある」と感じており、好きな点では「自然が豊か」が最も多く（40.4%）、次いで「まちの雰囲気」（13.6%）が挙げられた。一方、好きではない点としては「放課後や休日に楽しめる場所が少ない」（37.8%）が最多で、次いで「公共機関が充実しておらず移動が不便」（25.2%）、「買い物が不便」（14.1%）などが挙げられた。 ⇒放課後や休日に楽しめる場所の少なさ、買い物や交通の便に対し特に不満を感じている傾向あり。
進路意向	<ul style="list-style-type: none">卒業後の進路では、「岡山県内進学」が最も多く（38.2%）、次いで「中四国進学」（16.5%）、「関西圏進学」（15.4%）となっている。⇒地元志向が強い就きたい職業は、「まだわからない」を除くと「理容・美容・ファッション関係」（12.5%）が最多で、次いで「医療関係」（10.1%）、「教育関係」（8.8%）が続く。
居住意向	<ul style="list-style-type: none">「わからない」を除くと「住みたくない」が37.6%と最も多く、一方で「住み続けたい」「将来は住みたい」など居住意向ありは9.2%に留まる。居住意向ありの理由では「まちの雰囲気が好きだから」（44.4%）が最多、居住意向なしの理由では「進学・就職したいところがない」（32.6%）が最も多く、次いで「交通の不便さ」（23.0%）、「買い物の不便さ」（21.8%）が挙がる。 ※「男性優位の風潮が残り、女性が活躍しづらそうだから」は0.8%と少数派今後「住みたい／住み続けたい」と思ってもらうためには、「休日に楽しめる場所を増やす」（33.9%）の声が最多。
高梁市への関わり意向	<ul style="list-style-type: none">「関わりたいと思う」の割合が61.8%と高く、半数以上の人が高梁市との関わりを望んでいる傾向にある。関わり方として、「イベントに参加したい」（46.5%）と最も高く、「SNS等で情報は知っておきたい」（32.2%）、「ボランティアに参加したい」（9.3%）が続く。「地域に愛着があまりない」が46.9%と最も高く、次いで「地域の活動に興味がない」が28.2%となっており、高梁市に対する関心や思い入れが薄い人が多い傾向となっている。「何をすれば良いかわからない（18.3%）」という回答も一定数あり、関わりたい気持ちはあるが情報不足やきっかけの欠如が障害になっていることも読み取れる。

1-3. 調査結果（クロス集計）

・居住意向がある層/ない層の特徴やニーズを把握するためクロス集計を行いました。結果は以下の通りです。

No.	クロス項目	クロス集計結果
1	性別（Q1） × 居住意向（Q11）	・ 女性は男性よりも「定住意欲あり」の割合が低いが大きな差が見られない。
2	居住地域（Q3） × 居住意向（Q11）	・ 「定住意欲あり」は川上地域在住者に最も多く（33.3%）、定住意向「あり」が「なし」を上回る。 ・ 一方、他の地域では定住意向「なし」が「あり」を上回る。
3	学校（Q4） × 居住意向（Q11）	・ 全ての高校において、定住意向「なし」が「あり」を大きく上回り、「あり」の割合が最も高い「市立宇治高等学校」と「方谷學舎高等学校」でも13.3%に留まる。
4	愛着度（Q5） × 居住意向（Q11）	・ 「愛着がある」と回答した層は定住意欲ありが最も高くなっている（28.2%）⇒地域への愛着が定住意欲に影響しうる。
5	好きなところ（Q6） × 居住意向（Q11）	・ 「定住意欲あり」回答者で比較的高いのは「まちの雰囲気（15.3%）」「地域の人との関係（14.7%）」「歴史・文化（11.3%）」 ⇒人や文化・まちの雰囲気への愛着が定住意向に影響する可能性あり。
6	好きでないところ（Q7） × 居住意向（Q11）	・ 好きでない項目として医療サービス、地域の人との関係、まちの雰囲気と回答した人のうち、定住意向がある者はなし。 ⇒医療サービスや人間関係に不満を感じている人は転出可能性が高い。
7	希望職種（Q9） × 居住意向（Q11）	・ 「農林水産業」が最も定住意欲ありの割合が高く（23.1%）、「教育関係」（18.2%）が続く。 ・ 「建築・土木・建設」「美容・ファッション」「報道・芸能」では、定住意欲なしが6割前後と高い。
8	力を入れるべきこと（Q14） × 居住意向（Q11）	・ 「あらゆる仕事の機会を作る」「交通手段の充実」「教育環境の充実」の項目においては定住意欲なしの回答割合が高い ⇒多様な仕事の機会や、交通の便の良さ、充実した教育環境を求める人は転出可能性あり。
9	関わり意向（Q15） × 居住意向（Q11）	・ 「関わりたいと思わない」層では定住意欲なしが60.3%と突出して高い（「関わりたいと思う」層の中で、定住意欲ありは13.0%）

1-4. 考える施策の方向性

- ・ 調査結果を踏まえ、施策の方向性として以下が考えられます。

① 愛着形成の促進

市への愛着が定住意欲に強く影響していることから、特に若年層に対して高梁市への愛着を醸成する取組を強化する。

- ・ 若年層が地域に関わる機会や、地域とのつながりを感じられる場づくりを行う。
- ・ 愛着形成に寄与する要因（人との関わり、体験等）を明らかにし、施策に反映する。
- ・ 「地域に関わりを持ち続けたい」と感じてもらえる関係人口施策を実施する。

② 仕事・教育の魅力向上

多様な仕事や教育機会を求める層で定住意欲なし傾向が強いことから、市内でのキャリアや学びの魅力を高める取組を行う。

- ・ 市内企業や地域での多様な仕事の見える化、情報発信を強化する。
- ・ 高梁で学ぶことの価値（特色ある教育・地域連携型学習等）を明確化し、若年層への訴求を図る。

③ 生活の質の向上

交通手段や医療サービスへの不満が定住意欲なしに繋がりをため、暮らしの基盤の充実を図る。

- ・ 交通アクセスや移動手段の確保・改善を進める。
- ・ 医療・福祉サービスの利便性や安心感の向上に向けた取組を検討する

2. 大学生アンケート

2-1. 調査の概要（速報）

■調査の背景及び目的

・市内の人口減少が進む中、将来を担う大学生が高梁市で働き・住み続ける、または今後も関係人口として関わり続けることが求められています。本調査では、グループインタビュー結果を踏まえ、**市内就業意向・居住意向・市との関わり意向の3点**を中心にヒアリングを実施し、市内定着（就職）を促進するためのニーズや障壁を明らかにすることを目的とします。

■調査の対象者

・吉備国際大学の全学部全学年（社会科学部、看護学部、アニメーション学部、人間科学部、保健医療福祉部、心理学部）
※保健医療福祉部、心理学部は学部再編前の学部になるが、改編前入学の学生は当該学部所属）
⇒807人（10月1日時点の日本人学生数）

■調査の手法

・WEB調査票

■調査の時期

・10/6（月）～10/31（金）（本資料は10月24日時点の結果）

■回収数（人）

総数	198
----	-----

< 学校別回収数（人） >

社会科学部	151
看護学部	6
アニメーション学部	11
人間科学部	22
保健医療福祉学部	5
心理学部	3

■回収率（％）

全体	24.5%
----	-------

< 学校別回収率（％） >

社会科学部	49.5%
看護学部	11.3%
アニメーション学部	15.0%
人間科学部	12.7%
保健医療福祉学部	3.5%
心理学部	4.7%

2-2. 調査結果（単純集計）

・ 各設問項目の回答結果は以下の通りです。

	回答結果（重要箇所抜粋）
基本属性	<ul style="list-style-type: none">学部別では、「社会科学部」が最も多く68.6%を占め、次いで「人間科学部」16.8%、「保健医療福祉学部」5.5%、「アニメーション学部」5.0%居住地は、市内在住が78.2%と8割近くを占める。出身地は「岡山県内（高梁市を除く）」が最も多く32.3%、市外出身者が大多数を占める。
地域への愛着	<ul style="list-style-type: none">「愛着がある」「どちらかといえば愛着がある」を合わせると約4割（40.9%）が高梁市に愛着を感じている。
進路意向	<ul style="list-style-type: none">希望勤務地は「中四国地方（岡山県除く）」が最も多く29.5%、「高梁市内」は1.8%。希望する職種：「スポーツ関係」が最も多く26.7%を占め、次いで「医療関係」12.2%、「教育関係」9.0%、「公務員・団体職員（NPOなど）」10.1%職業選択において、「安定性（雇用・収入・福利厚生など）」を最も重視する傾向あり（30.8%）市内就職を検討したことのない人が94.1%と大半を占める。検討しない理由として、「交通アクセスや通勤環境が不便」（23.0%）、「生活環境（買い物・娯楽・教育など）に不安」（19.2%）、「地元に戻りたい」（18.0%）が上位。 ⇒就業環境に関する理由は比較的少なく、生活環境や移動利便性が市内就職意向に影響しうる。
居留意向	<ul style="list-style-type: none">居留意向として「地元に戻りたい」が最も多く36.4%、次いで「高梁市に住みたくはない（地元以外の市外に住みたい）」31.8%地元に戻りたい理由：「地元で友人・知人が多い」（25.1%）、「地元での生活環境が魅力的」（20.7%）⇒人とのつながりや生活の安心感が帰郷意向に影響しうる。住んでみたいまちとして、「生活が便利なところ」（31.4%）、「休日や余暇を楽しめる場所がある」（20.6%）が上位。⇒生活利便性の高さや余暇の充実といった“暮らしやすさ”重視の傾向あり。
高梁市への関わり意向	<ul style="list-style-type: none">市との関係継続意向はどちらともいえない」が48.2%と最多。関わりの内容としては「地域イベント・祭りに参加したい」（28.6%）、「市外就職しても仕事を通じて関わりたい」（15.3%）、「観光で訪れたい」（22.4%） ⇒ゆるやかな関係を希望する傾向あり。

3. 外国人ヒアリング

3-1. 調査の概要

■調査の背景及び目的

・市内では人口減少が進む一方、外国人人口は増加傾向にあり、今後は育成就労制度への移行により特定技能資格を取得し定住する外国人の増加が見込まれます。こうした状況を踏まえ、**外国人が地域住民として安心して暮らし、地域の担い手として活躍できるまちを目指し**、課題やニーズの把握と施策の方向性を検討します。

■調査の対象者

・高梁市内の企業で勤務する外国人

(武田鑄造(株)、マイコー(株)、(特養)まごころの里 備中、日軽形材(株)で勤務する11名)

【国籍】インドネシア：6名、ミャンマー：2名、ベトナム：3名

【在留資格】技能実習：3名、特定技能：8名

■調査の手法

・インタビュー形式

■調査の時期

・2025年9月29日～10月17日

3-2. 調査結果（1）

・「地域への愛着」「居留意向」「地域との関わり意向」の3つの軸でヒアリングを行いました。結果は以下の通りです。

区分	設問	回答
地域への 愛着	・高梁市は好きか	・概ね好き（3名、どちらともいえないとの回答あり）
	・高梁市の好きなところ	・生活環境（人が少なく静かで落ち着く、山の景色が良い） ・地域の日本人が優しい ・買い物（物価が安い、スーパーが近くて便利、母国の食材を扱う食料品店がある） ・病院が近くに複数あり安心 ・ジョイフルがある（集える場所がある）
居留意向	・生活で困りごとがあるか ⇒どのような困りごとがあるか	・買い物が不便（駅のバスセンターからポルカやゆめタウンが遠い、スーパーで売っているものが少ない（化粧品や魚の種類等）、業務スーパーのような格安のお店がない、スーパーが少ない） ・交通が不便（バスの最終便の時間が早い、バスの本数が少ない） ・遊ぶところがない
	・困った時の相談相手はいるか	・会社の人、組合の人 （会社によっては定期的に外国人社員を集めて相談事を共有する会を設けている）
	・住むうえで良い点はどんなところか	・会社にも母国の人が多くて安心 ・災害がない ・治安面で安心 ・物価がお手頃
	・今後も高梁市に住み続けたいか	・概ね住み続けたい ・給料が上がったら住み続けたい ・介護福祉士の資格が取れたら住み続けたい ・家族帯同できれば参加したい（特定技能2を取得できなければ帯同不可）
	・今後も住み続けるために、どのようなことが必要か	・交通の不便の解消 ・若い人が増え町に活気が出ること、賑わいが生まれること

3-2. 調査結果（2）

・「地域への愛着」「居留意向」「地域との関わり意向」の3つの軸でヒアリングを行い、結果は以下の通りです。

区分	設問	回答
地域との関わり意向	・ 地域の人（会社の人以外）と交流する機会はあるか	・ 概ね交流経験あり 【交流機会】 <ul style="list-style-type: none">・ 地域の祭り・ ゴミ拾い等のボランティア・ 文化交流会・ 市内の他の企業に勤める同郷人、外国人・ 近所の人
	・ 地域の人と関わりたいと思うか （会社以外の人との繋がりが欲しいか）	・ 地域との関わりに前向きな回答者と、特に関心を示さない回答者が半数ほどを占める。 【希望する交流機会】 <ul style="list-style-type: none">・ フットサル等のスポーツイベント・ 母国の文化を伝えられたり、おしゃべりができる交流会

その他意見	・ 会社の日本人は自分たち外国人社員に慣れているため気軽に話しかけてくれるが、市内の人はそうではない（距離を感じる）
-------	--

3-3. 考える施策の方向性

- ・ヒアリング結果を踏まえ、施策の方向性として以下が考えられます。

①生活利便性の向上

- ・バスの路線やダイヤの見直しなど、日常の移動・買い物環境の改善を図る。

②地域交流体制の強化

- ・行政・地域・大学・企業が連携した相談・交流の場（地域交流サロン等）を設け、内容の充実と活性化を図る。⇒地域住民として地域への参画を促進する

③就労・定住支援の充実

- ・家族帯同を見据えた住宅支援や子育て支援情報の提供を強化し、長期的な定住意欲を高める。
（今後育成就労制度に移行し、特定技能人材が増えることを想定）